

風早の本だより

北条高等学校図書委員会

《寒中号》

平成 26 年 1 月 1 7 日 発行

2 - 5 金子侑香里
1 - 4 村上満里奈
1 - 6 白石 七彩

今年も図書館の利用をよろしくお願ひします！

お正月が過ぎ、3学期が始まりました。

3年次生の皆さんは残りわずかの高校生活となりましたね。そして1, 2年次生の皆さんは新しい年次への準備をする時期がやってきました。

寒い日が続いていますので、室内でゆっくりと本を読んでみてはどうでしょう。新しい気持ちへの切り替えとして少し厚い本や今までといつも読んでいるものとは異なるジャンルの本に挑戦してみるのもいいですね。

ぜひ図書館に足をのばしてみてください。

※3年生で図書の返却がまだの人は大至急返却をお願いします。

新任の先生方のおすすめの本とメッセージ

先生方、ありがとうございました。

清水 裕子 先生 (保健室)

① おすすめの本

書名：『永遠の0』 著者：百田 尚樹

「娘に会うまでは死ねない、妻との約束を守るために。」そう言い続けた男は、なぜ終戦間際自ら零戦に乗りいのちを落としたのか。終戦から60年目の夏、祖父の生涯を調べるのに孫の健太郎と姉の慶子が、徐々に祖父「宮部久蔵」の姿を知っていきます。

天才だが臆病者。記憶の断片が揃う時、明らかになる真実とは。そこには、驚愕の事実が隠されています。同時に、主人公・宮部久蔵の感動的な人生とその幕切れが明らかになります。

は、上

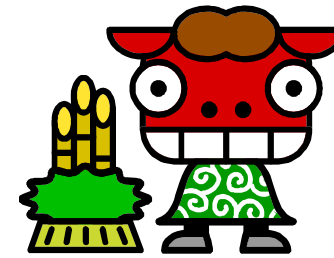
人間の命の大切さ、戦争の不条理、そんな中でも自己を失わずに生きていく「宮部久蔵」の人間としての美しさに涙せずにはいられない、そんな作品です。

② 北条高校生にメッセージ

戦争の歴史の悲惨さとその中を必死に生き、そして死んでいった人々の上に子孫である私たちの幸せが成り立っているということを忘れてはならないなど思われる作品です。

体験していないから。自分達が生まれる前の昔の時代のことだから。そんな言葉で風化させてはいけないなどと思います。今、日本は平和で、命の大切さも、懸命に生きることも、本当の意味で知ることは難しいのかもしれませんが、自分が体験しないことは感じられないというのではあまりに寂しく貧しいことだなど思うのです。

今この時代を、どんなふう生きていくか、そんなことも考えるきっかけになる本です。



吉田 美智子 先生 (事務室)

① オススメの本

書名：『白い犬とワルツを』 著者：テリー・ケイ

妻に先立たれたサム・ピークのその後の人生、死ぬまでの数年間を描いた作品です。

家族の愛や絆、ヒトとヒトとの関わり方について考えさせられる作品というよりも重い内容のように思われるかもしれませんが、暖かい視線で描かれた大人のメルヘンです。

② 北条高校生にメッセージ

私がこの本を買って読んだのはもう10年以上前の話になりますが、その当時読んで感じたことと、今改めて読んでみると、感じるものが少し違ってきました。

同じ本を読んでもその時の自分の年齢であったり、周りの環境などで感じ方が違ってくると思います。皆さんも一度読んだことがある作品をもう一度読み返してみてください。